



る う て る

2013 年
6 月
No.793

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631

■発行人■ 徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp

■印刷所■ 結文堂印刷株式会社

■定価■ 1部40円(郵便を含む)

「素直に叫ぶ」 ——主よ、助けてください

マタイによる福音書14章22〜33節
日本福音ルーテル甲府教会・諏訪教務師 市原悠史



こと、自分の周りでは今までと変わらぬ強い風が吹き続けているというところで、ついさっきまで自分が前に進むことを邪魔していた風や波は、イエス様に呼ばれた後も全然止んでいない、むしろさっきよりも危険な場所に立たされているというところに気がつくのです。そのことに気づいたとき、私たちは沈んでしまふのです。私たちがイエス様を求める思いは、暗く、深い湖の中に沈んでしまふのです。

イエス様の弟子の中で、ペトロという人がいます。バチカン市国のサン・ピエトロ大聖堂という名前も、彼のことを指しています。これは、イエス様がペトロに教会の権威をお与えになつたという聖書の記事に由来するのですが、このようにペトロは弟子たちの中でもリーダーとして立てられている人物なのです。

イエス様の弟子、その中でもリーダーですから、きつと立派な、信仰深い人物であるかのように思っています。私も、福音書が伝えるペトロの姿は、私たちが思うような所謂立派な



弱さや負い目を人に伝えていくことはしません。むしろそれを隠そうとしたり、言い訳したり正当化したりして、認めようとしません。人に知られたくないのです。ですが聖書は、弟子のリーダーの弱

さを、信仰者のモデルの負い目を伝えてくれています。それは、この弱さを持った人間の姿こそ、信仰者の本来の姿であるからです。私たちが抱く立派な信仰者の姿、「こうありたい」と思うあり方は、波も風も恐れず、水の上をただ信じて歩いてイエス様のところまで真つ直ぐ進むような姿ではないでしょうか。確かにそのような方は立派です、実際におられたら心から尊敬します。できれば私もそうありたいですし、そうなるために努力したいと思いが、私たちが誰かよりも強いのではないのです。私たちの信仰の現実とは、強い風や波に襲われるとすぐに沈んでしまふようなものなのです。

イエス様に近づきたい、「来なさい」と招いて下さり、歩けるようにしてくださったイエス様の呼びかけに、導きを信じて歩きたい、歩みたい、誰かがそのような思いを抱くでしょう。ですが、実際に歩みだしてからは、自分はずっと不安定な水の上を歩いている

は、このような姿です。立派に水の上を歩きつめてみせる強さではなく、沈みながら、もがきながら、みつともない姿かもしれない。それでも助けを叫ぶ、そのような姿なのです。私たちが信じるのは、イエス様の呼びかけと、イエス様が私たちの手をしっかりと掴んでくださる、あるいは今まさに掴んでくださっているという事なのです。沈まない信仰よりも、助けてくださることを信じて叫ぶことが大切なのです。

私たちが沈みます。どこかで必ず、ですがイエス様はそのような私たちの手を掴み、「なぜ疑ったのか、でも、もう大丈夫だ、安心して下さい、恐れることはない」と、語りかけてくださるのではありません。私たちがより深い信仰告白へと導いてくださるのです。

これを読んでくださっている皆さんの手には、既にいくつもイエス様に掴まれた跡があるかもしれません。これからつく方もおられるでしょう。私たちの信仰の弱さの証であるように見えるその跡こそ、イエス様が私たちと共にいてくださっていることの証拠です。イエス様は、私たちの弱さを知っておられます。その弱さに働きかけてくださいます。安心して行きましょ。

ルーテル幼稚園・保育園 連合会研修会

8月5日(月)〜6日
くまもと森都心プラザホール
(宿泊はホテルニューオータニ)

テーマ
共に担うキリスト教保育
講師

- 本田哲郎(神父) (フランスコ会司祭)
- 平川雅子(先生) (親業インストラクターおてんとさん主宰)
- 尾道幸子(先生) (くまもと江津湖療育医療センター地域療育部 心理療法士、相談支援専門員)

*詳細は次号に、お問い合わせは、門司幼稚園の岩切雄太先生まで

第10 回るてるる法人会連合総会

■日時: 2013年8月27日(火) 13:00〜28日(水) 15:00

■場所: 日本福音ルーテル東京教会宣教 100 年記念会堂

■主題: 「新しい宣教の展開に向かうために」〜「伝道教育」奉仕」が連合する豊さに包まれる時〜

■記念講演: 「現代の課題である『孤独』『無縁』への取り組みから学ぶ」〜白浜レスキューネットワーク理事長の活動を通して〜 藤藪庸一(白浜バプテストキリスト教会)

宗改改革100周年に向けて
ルターの意味を改めて考える(13)

ルター研究所所長 鈴木浩
パウロ、アウグスティヌス、ルターが人間の罪に拘ったのは「罪を犯さないことができない」という「罪」の不可避性こそが、人間が抱えている最大の問題だと見抜いていたからである。

この場合、罪とはあれこれの悪事のことである。以上、あれこれの悪事を引き起こす「人間の根源的あり方」を指している。

ルターは、ほとんど病的なほどに自分の罪深さを感し、罪人を罰する神の義(正義)を恐れ、突然、それ

「神の義」の理解の逆転が…「罪人を裁く神の正義」から、「神が罪人に与えてくださるキリストの義」への転換が突破口であった。それは、「天動説から地動説への転換に比すべき、革命的転回点であった。ルターはこの突破口を突き進んだ。そこから、中世神学の徹底的再点検を行つたのだ。だから、「一点突破全面展開」なのだ。そこから、ルターが神学が成立していった。

それは、徹底して「恵みのみ信仰のみ」の神学であった。

宗改改革100周年に向けて
ルターの意味を改めて考える(13)

ルター研究所所長 鈴木浩

パウロ、アウグスティヌス、ルターが人間の罪に拘ったのは「罪を犯さないことができない」という「罪」の不可避性こそが、人間が抱えている最大の問題だと見抜いていたからである。

この場合、罪とはあれこれの悪事のことである。以上、あれこれの悪事を引き起こす「人間の根源的あり方」を指している。

ルターは、ほとんど病的なほどに自分の罪深さを感し、罪人を罰する神の義(正義)を恐れ、突然、それ

東教区50年記念大会 676名の参加者が 三鷹に集う！



五月晴れに恵まれた5月4日、記念大会は挙行されました。会場前の広場に午前10時、力強い民族打楽器の小太鼓の音が響き渡り開会を知らせています。次いで、浅野実行委員長が高らかに開会を宣言、記念大会がスタート。



に、多様なプログラムを用意されました。参加者は各自の興味のあるイベントに三五々々出席しました。まずは、ルーテルの良さを味わい体験しようというのがねらいです。集会の

部「フェスタゾーン」では多彩なプログラム。宣教の部では、「ルーテルの学び」や、シンポジウム「東教区の過去・現在・未来」があつまれ！こどもたち、次世代プログラムもそして、五チーム参加の「コンサート」。さらに、プロ舞台による「屋敷コーナー」、大盛況満席でした。

●感動・感激・感謝のひと時
50年目の出会いと喜びと交わり、東教区の歴史が主に導かれたことに感謝を篤くし、将来を神さまにゆだね、福音宣教

ができることを感謝し、らしさに感動。「新緑のICUキャンパス、素敵です。浅野教区長の力強いみことば、復活のイエス様を信じ喜び歩もうと励まされ、みことばが深くしみいるようでした。「次世代を担う子供たちとコンサートに出演。素敵な思い出となりました。50年後、再びバナーを掲げた子供たち世代が百年大会を盛り上げてくれるように、祈ります」。

派遣聖餐礼拝（ICUチャペル）には630名が出席。席上献金は六〇万円千六百九十二円でした。記念大会実行委員 津川栄一

第12回九州教区 信徒大会報告

実行委員長
岩崎國春（大江教会）



4年に一度の九州教区信徒大会は、去

る3月19・20日、熊本九州学院を会場に開催されました。今回で12回を数えます。参加者は、二日間平均約200人超でした。

大会主題は、「全きものとなる私たちの喜び」と

し、主題聖句を、ヨハネの手紙第1章3節bとい

主題講演者として、高知の清和女子中・高校長黒田朔先生をお招きし、「牧会お助けマンが語る素敵なクリスチャンライフ」の演題で、2回に亘り、お話を頂きました。

先生は、「私たちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりであり、この交わりが、私どもを育て守る。基督者は、今、永遠の命を生きている。信仰生活の基本は、選

択+決断+覚悟。私たちは、自分のシナリオで

生きるのではなく、**神様のシナリオ**に従って生きることが肝要。この生き方は、人を楽にし、希望と喜びに満ち溢れた素敵なクリスチャンライフを導き出す」と説かれました。

先生は、穏やかな口調で、時にユーモアを交え、聴く者には、清々しく、心を動かす一言一言でした。大会は、声高らかに神を賛美し、共に聖餐に与った派遣礼拝で終わりました。ルーテル学院中高のハンドベル、平成音楽大学トロンボーンアンサンブル、市内ルー

テル教会の音楽グループ「ラウダームス」と「ファミリアバンド」による音楽奉仕、熊本県内の教会と施設関係教職者による聖餐式は、大変な恵みと感謝でした。今回は、信仰の友との交流を深める機会として朝食交流会を設け、熊本的女性会奉仕によるおにぎりとお味噌汁が振る舞われました。

大会期間中には、各教会や施設の物品販売が店開きし、東日本大震災復興支援コーナーも設けられ、どちらも盛況でした。

今大会は、2017年の「宗教改革500年の時」を視野にした開催でした。

【前浜建設委員会ブログ】
<http://ameblo.jp/naeham-community-center/entry1-ishnm1>

JLER(ルーテル教会救援) 対策本部 現地からのレポート JLER派遣牧師 野口勝彦

ルーテル教会救援最大の支援プロジェクトである気仙沼市本吉町前浜のコミュニティセンター再建プロジェクトもいよいよ終盤に差しかかってきました。先月3日には、このプロジェクト支援に関わる40近い団体・個人の代表や気仙沼市長をはじめ地元住民の方々が集まり、上棟式が盛大に執り行われました。ルーテル教会救援からは、青田本部長をはじめ「となりびと」のスタッフ全員が参加し、青田本部長が祝辞を述べました。

また、上棟式後の直会（なわらい）では、ルーテル教会救援の支援による絆を纏い、大漁唄い込みも披露されました。今月号では、このプロジェクトのこれまでの経緯を現地スタッフから報告いたします。

現地（前浜）スタッフ 泉山友美子
「できるだけ早い再建を」というのが、震災の年の夏に行ったコミュニティセンター再建に関する2回の住民アンケートの結果でした。同年9月には全員地域住民である建設委員会を立ち上げ、ルーテル教会救援をはじめとする多くの支援者と地域住民、そして気仙沼市の三者が協力して建設を進めてきました。

小屋づくりやセンターの外壁となる焼き杉作業などのワークシヨップ（以下WS）を行ってききました。WSには地域住民以外に、ボランティアさんや他地域の方も参加するなど、こういったWSがまたコミュニティを生んでいることは確かです、本場にありがたき思っています。



JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
<http://lutheran-tonanbi-to.blogspot.jp/>



第二章「R」はRでもリーフオーマー・ルターの場合 その二・定冠詞付き大文字「R」になったのは、

五十八年前、千葉真検台での開拓伝道を経て福岡は久留米市の由緒あるルーテル教会へ赴任した時のこと。まず、一九一八年ヴォーリスによって建築、奇しくも戦禍を免れたテンマーク風赤レンガ造りの教会堂の偉容には圧倒された。二年ほど開拓村の保育所で集会を行っていた状況との違い！ところが、間もなく筑後地区諸教派連合の牧師会があり、改革派の流れをくむ教会の牧師から、開口一番「ここはドルの匂いふんぶん、外国依存の教会」と揶揄され、思わぬ歓迎に遭った。若輩ながら言い返した、「アメリカだけでなくドイツや北歐、南米のルーテル諸教会と、ルターによる『福音再発見』に基づく『信仰義』の信条を共有する福音教会に、それに日本福音ルーテル教会史上、最初の自給教会だ（一九一九年）と。今思えば、基督教香港信義会やポロランドの「アウグスブルグ信仰告白の福音教団」など数多の姉妹教会のことも言い添えるべきだった。

「建て直し」といえば今年、伊勢神宮では二十一年一度、出雲大社では六十年ぶりの「大遷宮」が行なわれる。遷宮には、修理を超えて、清浄宙箱を反映する全部作り替える、意義が潜むと聞く。ルターは、一五四五年の「ウィッテンベルク

版ラテン語著作全集第一巻への自序」の中で、改革運動の経緯と彼自身の「福音再発見」の図塔の体験を重ね合わせている。その実態は「悔い改め」であり、「信仰」よってのみ義とされ、恵みの神との出会い、つまり「信仰そのものの一大改革」であった。定冠詞つきRのように、大文字で書き出せない邦語で、「宗教」といった漠然とした形容詞を付せざるをえないのは何として、ももどかしい。

そこで、前号でも言及した岸先生の発言になるが、神学校長に就任後間もなく、東京、お茶の水Y.W.C.A.における「宗教改革記念講演会」でのこと、話も大分進んだ頃、突然大声で「Reborn! 悔い改めよ」と、静まりかえっていた満場の聴衆を震撼させた。その時、私は席を飛び立つほど身震いしたのをつい先頃のことのように思い起こす。これまた銘記すべき「R」だ。

「建て直し」といえば今年、伊勢神宮では二十一年一度、出雲大社では六十年ぶりの「大遷宮」が行なわれる。遷宮には、修理を超えて、清浄宙箱を反映する全部作り替える、意義が潜むと聞く。ルターは、一五四五年の「ウィッテンベルク



十戒

ステンドグラス工房 アスカ

山崎種之(松本教会会員)

広島県福山市にある西日本福音ルーテル教会の東福山教会には、モーセの十戒の二枚の石板が入ったステンドグラスがあります。

エジプトを脱出して、ヘブライ人たちはシナイ山の麓に着きました。モーセはシナイ山の基本となる十戒を与えられました。しかし人々は、

金の子牛の偶像を祭り上げていたので、モーセは二枚の石板で偶像を打ち砕きました。

この十戒こそ、求道者には必修のものと思えます。『出エジプト記』20章1〜17節、『申命記』5章1〜17節、『レビ記』19章18節。

ステンドグラスの中央、十字架には、天より鳩が降っています。主イエス・キリストは「バプテスマのヨハネ」から洗礼を受け、聖霊が鳩のように降ったと録されています。

『マタイ』による福音書』3章16節。キリスト者も等しくその人の魂に聖霊は鳩のように降り、聖書のみことばを理解させて福音による救いの喜びを持たせてください。

下段には、麦とぶどうのエツチンがあります。主イエス・キリスト

による「聖餐」を示して、聖霊の三位一体の神を私たちは信じます。

創造主、救い主、そして私たちが信じています。

て、聖霊の三位一体の神を私たちは信じます。

て、聖霊の三位一体の神を私たちは信じます。

て、聖霊の三位一体の神を私たちは信じます。

て、聖霊の三位一体の神を私たちは信じます。



今年もやってきました！ 2013ルーテル こどもキャンプ

毎年夏に行われているルーテルこどもキャンプ。1999年に開催されたルーテル国際少年少女キャンプから始まり、2006年からルーテルこどもキャンプと名前を変え、平和について学ぶキャンプ、世界

の国々について学ぶキャンプが毎年交互に行われています。

第15回目の今年は、「アサントニアサンテ！」とテーマの心をつつとをテーマに8月7〜9日、ルーテル学院大学/日本ルーテル神学校で行われます。キャンプではテーマ園について

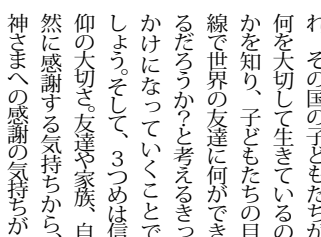
知ることはもちろんですが、大きく分けて3つの伝えたいことがあります。

1つめは、いのちの大切さ、日本との違いがたくさんあるけれど、そこにある全ての命が大切で、つながっていることに気付かされます。2つめは、友達の大切さ、みんなが神様に愛され、その国の子どもたちが何を大切に生きているのかを知り、子どもたちの視線で世界の友達に何ができるだろうか？と考えるきっかけになっていくことでしよう。そして、3つめは信仰の大切さ。友達や家族、自然に感謝する気持ちから、神さまへの感謝の気持ちから

芽生え、どんな時も共に神さまが歩んでくださっていることを確認できる時間となります。

全国から集まった5、6年生。初めはぎこちなくも、凝縮した48時間の中でかけがえない仲間へと変化していきます。そしてこどもキャンプでの出会いは、毎年行われているルーテル春の全国ティーンズキャンプへとつながっていくのです。神さまが大好きで、同じ讃美歌を歌い、同じ祈りをささげる同世代の仲間と過ごす。普段の生活では味わえないことです。

今年のキャンプの主題聖句は「いかに幸いなことか



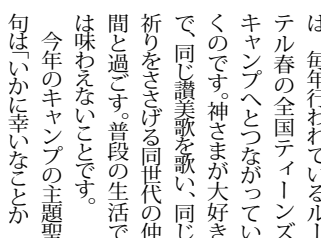
主の教えを愛しその教えを 屋も夜も口ずさむ人(詩篇 1篇1〜2節)子どもたちが 1日中賛美をしている様子 を想像するとワクワクし ませんか？どうぞたくさん の子どもたちを送り出して ください。スタッフ一同お 待ちしています。

千葉教会 石井沙絵

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。



主の教えを愛しその教えを 屋も夜も口ずさむ人(詩篇 1篇1〜2節)子どもたちが 1日中賛美をしている様子 を想像するとワクワクし ませんか？どうぞたくさん の子どもたちを送り出して ください。スタッフ一同お 待ちしています。

千葉教会 石井沙絵

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。



主の教えを愛しその教えを 屋も夜も口ずさむ人(詩篇 1篇1〜2節)子どもたちが 1日中賛美をしている様子 を想像するとワクワクし ませんか？どうぞたくさん の子どもたちを送り出して ください。スタッフ一同お 待ちしています。

千葉教会 石井沙絵

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。

主の教えを愛しその教えを屋も夜も口ずさむ人(詩篇1篇1〜2節)子どもたちが1日中賛美をしている様子を想像するとワクワクしませんか？どうぞたくさんの子どもたちを送り出してください。スタッフ一同お待ちしております。



東海教区「わいわいワーク」に福祉村

齋藤幸二

4月29日祝日、東海教区恒例の「わいわいワーク」に福祉村が開催されました。わいわいワークは東海教区がデンマーク牧場で始めた福祉村の働きをワークで支援するプログラムです。

福祉村には現在特別養護老人ホームデイケア、児童養護施設さまびほの家、自立援助ホームこどもの家、心療内科こひつじ診療所の4施設があります。自然環境に恵まれています。職員だけ

で敷地内を整備するのは困難なので、多人数でなければできない作業をこのわいわいワークで行ってきました。

今年も子どもから高齢の方まで、130名以上の方が参加しました。わいわいワークは教区の信徒の奉仕だけでなく、交わりの場にもなっています。さらにデンマーク牧場福祉会の職員たち、児童養護施設の高校生たちも一緒に働くので、職員と施設の利用者、職員



たちとの出会いの場になっていきます。プログラムは10時の開会礼拝から始まり、教区に新たに赴任した教職の紹介、またデンマーク牧場福祉会の職員の紹介が行われました。参加者はみんな作業服姿です。ワークの内容は、敷地内の除草、老人ホームの利用者のための傾聴、縫い物、園芸、ペンキぬり、大工仕事などです。お昼休みは1時間半あるのですが、その間に牧場の売店でアイスクリームやヨーグルトを食べる人もいます。また各教会の福祉村世話人(チーフ・サポーター)は集まって昼食を共にしながら情報交換を行います。

今年も天候に恵まれ、午後3時の閉会の祈りから、ふだんの集会よりもリラックスした、兄弟姉妹としての親しい気持ちで礼拝から終わりまでの時間を過ごすことができました。



ワークの内容は、敷地内の除草、老人ホームの利用者のための傾聴、縫い物、園芸、ペンキぬり、大工仕事などです。お昼休みは1時間半あるのですが、その間に牧場の売店でアイスクリームやヨーグルトを食べる人もいます。また各教会の福祉村世話人(チーフ・サポーター)は集まって昼食を共にしながら情報交換を行います。

で、新緑の光がまぶしい自然の中で気持ちの良い汗をかいた一日でした。きつと参加者全員が充実した思いで家路に着いたことと思います。私たちの教区に、このような交わりの場、出会いの場、奉仕の場が与えられていることをとても嬉しく思います。

大森教会は、米国のスオミ・シノッド(フィンランド移民のよって設立したミッション・他に甲府教会がありま

1975年に鉄筋コンクリートの園舎を建てました。幼い子どもたちの心の中に神さまの素晴らしい「愛の心」の種を蒔いてきました。さらに主の福音を伝えるために、福音の証として幼児教育の責任を負うことを教会の伝道として、伝道60周年を迎えて、教会は、旧館(75年建築)の耐震補強工事と新会堂、新園舎の工事に2012年から取り組み、2013年3月に完成しました。そして、4月28日の献堂式を主と、みなさんとお祝い出来ました。コンクリート打ちっ放し。中には、54年当時の聖壇、説教台、洗礼盤、聖具、椅子、灯り、75年以降のステンドグラス、十字架などを残して歴史を繋いだ趣のある教会堂、園舎となりました。



ルーテル関係で初 JELAが「エキユメニカル」賞を受賞

今年19回目となる顕彰で、ルーテル教会関係では初めて、日本福音ルーテル社団(JELA)中

川浩之理事長)が同賞を受賞しました。JELAは、1909年に在日アメリカ南部福音ルーテル教会ユナイテッド・シノッド宣教師社団として設立された一般社団法人です。

その活動は一般的に知られている宣教師支援事業にとどまらず、カトリック教会や難民・移住労働者問題キリスト教連

顕彰式では、JELA常務理事の長尾博吉氏(日本福音ルーテル教会引退牧師)が活動報告を行い、キャロル・サツク氏(リラ・プレカリア・ディレクター)がハーブの演奏とともに祈りを捧げました。会場にはキリスト教の諸教派から、約40人が集まり、その受賞を祝福しました。

日本におけるエキユメニカル(教会一致)運動に貢献した団体や個人を顕彰する日本エキユメニカル協会(松山與志雄理事長、1969年岸千年先生を初代理事長として発足)の「エキユメニカル功労」顕彰式が、4月29日に日本福音ルーテル東京池袋教会で開かれ



日本エキユメニカル協会の松山理事長は、JELAの活動について「日本福音ルーテル社団は、キリストの愛をもって世界の助けを必要とする人々に仕え、エキユメニカル運動に多大の貢献をされた」と評しました。

その活動は一般的に知られている宣教師支援事業にとどまらず、カトリック教会や難民・移住労働者問題キリスト教連

大森教会は、米国のスオミ・シノッド(フィンランド移民のよって設立したミッション・他に甲府教会がありま

1975年に鉄筋コンクリートの園舎を建てました。幼い子どもたちの心の中に神さまの素晴らしい「愛の心」の種を蒔いてきました。さらに主の福音を伝えるために、福音の証として幼児教育の責任を負うことを教会の伝道として、伝道60周年を迎えて、教会は、旧館(75年建築)の耐震補強工事と新会堂、新園舎の工事に2012年から取り組み、2013年3月に完成しました。そして、4月28日の献堂式を主と、みなさんとお祝い出来ました。コンクリート打ちっ放し。中には、54年当時の聖壇、説教台、洗礼盤、聖具、椅子、灯り、75年以降のステンドグラス、十字架などを残して歴史を繋いだ趣のある教会堂、園舎となりました。



3月に引退された宣教師 渡邊進牧師 千35010844 川越市 鴨田240916 田中博一牧師 千11200011 東京都文京区千石214614 千031691211903 FAX共用